

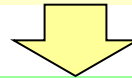
デジタルサイネージコンソーシアムにおける 「Lアラート」連携の取り組み

<http://www.digital-signage.jp/>

2014年11月13日

Digital Signage Consortium

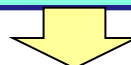
1. 「デジタルサイネージ・ユーズーズ・フォーラム」の活動 2010年6月～
○経緯 サイネージシステム標準化のための事業者組織であったDSUFは、東日本大震災の発生をうけ、「災害時情報発信」と「節電環境下での運用」について議論を深度化



2. DSC「ユーズーズ部会」の発足 2012年12月～
○経緯 DSUFのメンバー企業の一部が、「ユーズーズ部会」(※現在18社)に移行、引き続き「災害時における運用ガイドライン」の内容を検討するほか、事業者間の情報交換を行う



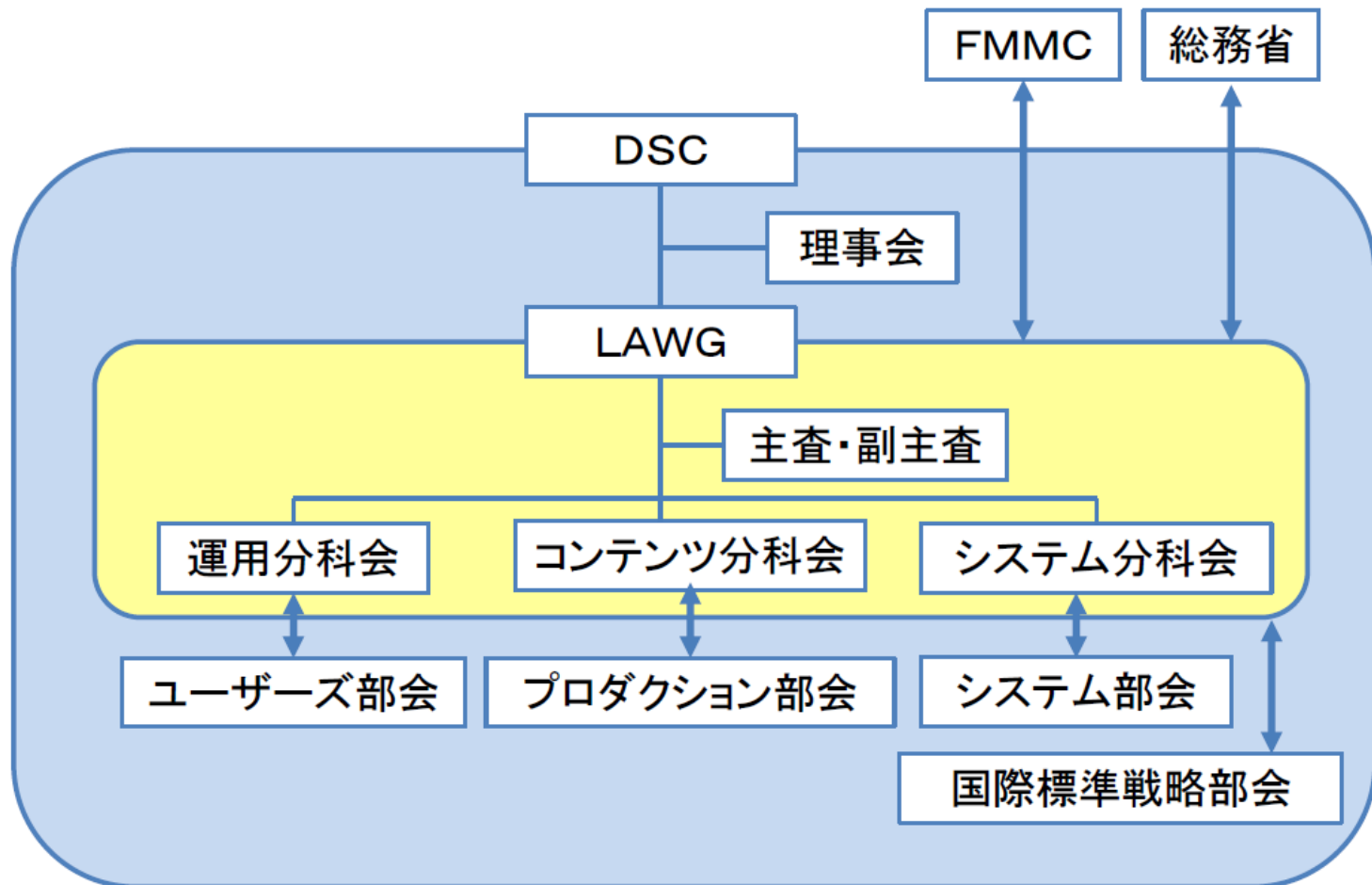
3. 「災害・緊急時におけるデジタルサイネージ運用ガイドライン」の発表
2013年6月～ DSCホームページで発表 ⇒ 2014年6月～ 改訂版発表



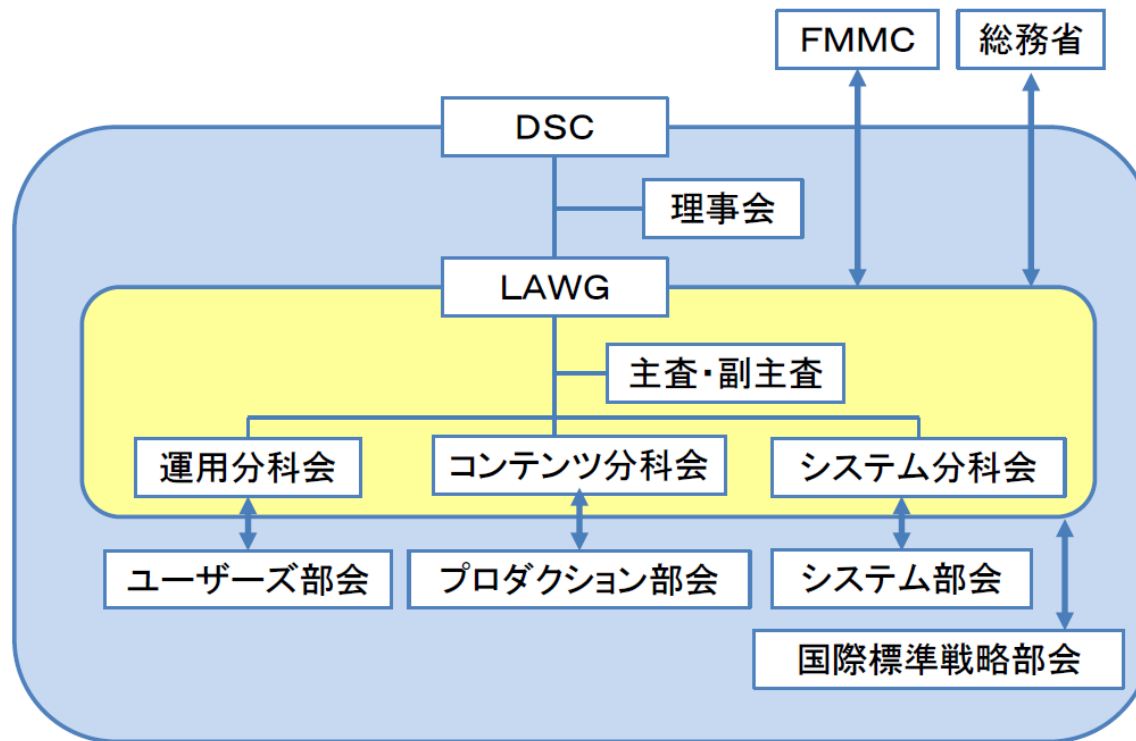
4. DSC「Lアラートワーキンググループ」発足 2014年8月～

■DSC LアラートWGの活動

- 3つの分科会を設置して会員からメンバーを募り、検討を行う。
- 検討に際してはDSC既設部会・FMMC・総務省と連携する。



■DSC LアラートWGの活動



①運用分科会

運用規定の策定、
緊急運用開始及び
終了、緊急体制、広
告補償など

②コンテンツ分科会

主要なコンテンツの検
討や要望、テンプレート
案の作成など

③システム分科会

Lアラートとのシステム
接続規定の策定、接続
方法、切替、割込、ログ
を含むシステム要件定
義など

【参考】災害時運用における課題

2013年9月 DSCユーザーズ部会会員企業にアンケート実施

■災害時運用の現実的な課題(順不同)

- インフラ整備のためのコスト負担
- システム環境の構築や機能付加
- 情報の正確性の確保
- 周辺情報との連携(他ソースの情報との整合性)
- 社内運用体制の構築
- 情報の切替、復帰の条件について、可能な限り明確な指標が必要

■今後の継続検討テーマ

- ガイドラインの継続的検討による内容の深度化
- DSCにおける継続的な情報発信
- 各社マニュアル作成及び運用基準策定の支援
- 有益な事例等の情報共有化 etc.